

研修名 発達支援リーダー研修 第3回 【支援編】

平成27年9月30日(水) 15:00~17:30

講演「 支援スキルの習慣 ～子どもの行動特性の捉え方～ 」

花ノ木医療福祉センター 講師 弓削 マリ子 氏

## 1 講演要旨

### 1) 子どもの行動の背景

子どもの行動は子どもの要因と環境要因を把握する必要がある

- ①子ども自身の要因・・・年齢、発達状況、気質・個性、特性、健康状態・体調、過去の経験、出生順位
- ②環境要因・保護者、保育士等の子どもへの対応の仕方
  - ・保護者、保育士に影響を与える要因（ストレス・心身の健康状態）
  - ・その時のまわりの状況（人・物・場所・時間）

### 2) アセスメントの3つの視点

- ①発達のプロフィールを把握する
- ②子どもの気質・特性・体質・健康状態への気付き
- ③環境(周りの状況)を振り返る



すぐに改善する事が出来るというメリットがある。

### 3) 発達プロフィールの把握

- ①身近に活用できる発達検査
  - ・KIDS 乳幼児発達スケール
  - ・乳幼児発達診断方法
  - ・遠城寺式乳幼児分析的発達検査法
  - ・日本版デンバー発達スクリーニング検査
- ②発達評価での留意点
  - ・発達領域に分けて評価する
  - ・アンバランスがないか確認する
  - ・発達の退行、停滞に注意する

※対象者の年齢や、把握したい発達内容によって使い分ける。

### 4) 遊びの観察で子ども理解を深める

使い慣れたおもちゃで遊び、その中で領域別(粗大運動、手の運動、対人関係、コミュニケーション)に発達を観察する

- ①一人の子どもの遊び方を縦断的にみる。

②同じおもちゃの遊び方を、集団について横断的にみる。

5) 「好ましくない行動」が子どもを理解するチャンス

- ①好ましくない行動を「子どもが困っている悲痛な叫び」として、子どもの心の声を聴ける「耳」を持つ。
- ②「困った子」は「困っている子」で、ありその子の発達プロフィールを理解する
- ③日常の様子から適応の困難さに気づく。
- ④「こだわり」は悪くない。「なぜこだわるのか？」というところをまず考えるようにする

6) 子どもが困ることを減らすために

①子どもへの理解

簡易発達検査を活用して発達プロフィールを理解し、行動観察などからその子の得意苦手を把握し苦手の背景についてよく検討する

②気になる行動は理解を深めるチャンス

「困り行動」がみられたら、まず気持ちに寄り添い「わからないのかもしれない」と推測しその原因にあった対応をする

③子どもは理解できたか

子どもがよくわかって積極的に興味を持って、楽しく参加するようにやりやすいように目配り・気配りをする

④わかりやすい表示

どの子どもにもわかりやすく居心地のいい工夫

パネルシアター・紙芝居・モデリング・段落を区切った表示・繰り返し

・手順を変更しない・子どもが自分で確認出来る工夫

⑤基本的なソーシャルスキルの定着

・「まって」「助けて」「おねがい」「ありがとう」等のTPOに応じた言葉

・身振り、カードでわかりやすい表現をする

⑥ほめ上手な保育士になる

ペアレントトレーニング手法を活用し、子の良いところ注目するよう心掛ける

## 2 感想

講演を聞かせていただき、「遊びの中で子どもの育ちをみる」ということはとても大切だと感じた。

現在の保育室には粗大運動、微細運動の様子を観察するような玩具は数多くあるが、対人関係、コミュニケーションをみる玩具が少ないのでこれから環境を少しずつ変え毎日の生活の中で子どもたち一人ひとりの特性や性格をよりじっくりと見ていけるようにしたいと思った。